
第5回 昭島市総合基本計画審議会 第2部会

議事要旨

【日時】平成22年6月24日(木)19:00~20:00

【場所】昭島市役所 3階 庁議室

【出席者】

1 委員

石崎忠司会長、平畑文興副会長、岡田明恵委員、川元英貴委員、竹村茂己委員、中野久史委員、長谷川祐司委員、福田晃委員

(欠席者)稲員とよの委員、矢崎まゆみ委員

2 事務局

佐藤総合基本計画担当主幹、柳主査

3 コンサルタント会社

白鳥、松尾

【日程】

1 基本計画素案

第6章 躍動する あきしま (産業の活性化)について

(1) とともに働く(勤労者の福祉向上)

勤労者

(2) 豊かに暮らす(消費生活の充実)

消費者

2 その他

【配布資料】

・第6章 躍動する あきしま (産業の活性化)

[議事要旨]

議事要旨の確認

事前に送付した議事要旨について、各委員の了承を得た。

1 基本計画素案

【説明】

事務局より、資料に基づき「第6章 躍動する あきしま（産業の活性化）」の説明が行われた。

【質疑応答・意見】

(1) ともに働く（勤労者の福祉向上）

(融資制度について)

「勤労者・市民の一時的な出費に対する融資制度」(P16 福利厚生充実B)は、市が行っている融資制度なのか。【石崎部会長】

融資は金融機関が行っている。市はそれを斡旋している。【事務局】

信用保証もしているのか。【中野委員】

行政では行っていない。信用保証協会の利用あるいは保証人を立てることが必要である。【事務局】

(勤労市民共済会について)

勤労市民共済会の活動や状況は具体的にどのような内容か。【中野委員】

会員の方から会費を徴収し、様々なイベントの開催や活動の支援等を行っている。【事務局】

勤労市民共済会の組織率はどの程度なのか。【福田委員】

組織率についての数値は手元にないが、加入者数は2,000人弱で減少傾向にある。中小事業所で働く方と事業主の方々の福利厚生をサポートしている。【事務局】

今年勤労市民共済会に加入したが、月400円の会費で旅行や人間ドック、子供の入学祝い等の補助があるので、加入して良かったとの声を聞いている。【竹村委員】

他市では、勤労市民共済会と商工会を一体化して運用しているところが増え、組織率向上や活用範囲の拡大に繋がっている。商工会と一体化できると、効率も良く利用しやすい。【平畑副部会長】

小規模事業者にとって、従業員の福利厚生向上に役立つ良い制度である。【竹村委員】

加入者数の現状値が1,957人となっているが、高い数値なのか低い数値なのか判断できない。【石崎部会長】

加入者数はホームページでも報告されているが、市としても充実を支援していきたい。【事務局】

(2) 豊かに暮らす（消費生活の充実）

(消費者ルームについて)

「消費者ルーム」(P19 消費者意識の向上B)とは何か。【岡田委員】

消費生活活動を行う団体の活動拠点である。【事務局】

利用は登録制なのか。【中野委員】

利用は団体の登録制となっている。【事務局】

(消費生活について)

「安全・安心な消費活動」(P19 施策の体系)とあるが、安全と安心に加えて「便利な」という言葉を加えてはどうか。【石崎部会長】

消費生活の充実に関しては、安全・安心と環境への配慮が基本的な考え方となる。消費者庁ができた背景に振込め詐欺や食品偽装問題があることも踏まえて「安全・安心」としている。【事務局】

(環境面について)

「環境に配慮した消費生活」(P20 基本施策)とあるが、具体的なイメージはどのようなものか。【長谷川委員】

太陽光発電の導入・利用や、環境に配慮した商品の購入等、地球環境に負荷をかけないように生活することであり、いわゆるエコ活動をイメージしている。【事務局】

広義に解釈して「ロハス」の概念を取り入れることも考えられる。【石崎部会長】

現時点では、「環境」という言葉の方が昭島の市民生活には馴染むと考えている。【事務局】

太陽光発電は、今後設置する方には支援があるが、既に設置している方には支援は行わないのか。

【川元委員】

現在の支援サポートの仕組みの中では、今後設置される方への一時的な補助が中心になる。太陽光発電の余剰電力を電力会社が買い取る価格が多少上がったが、市の独自施策としては点検や交換等への支援は現時点では実施していない。【事務局】

太陽光発電への支援を説明する際、一概に太陽光発電が費用低減につながるものではない点等、デメリットも明確に伝えるべきである。【川元委員】

情報提供に関して、コストも含めてきちんとした説明を行う。【事務局】

(全体的な考え方について)

「豊かに暮らす」という時、経済面での消費生活だけを指すのではなく、心豊かに暮らすといったより広い意味合いも含まれるのでは。【石崎部会長】

ご指摘の通り、市民のより良い生活を支援していくことが行政としての責務である。多様な施策分野にまたがる課題であることから、適切な分野で各々の施策を規定している。【事務局】

全体的な印象として、他のテーマでは前向きな書き込みが多かったのに対し、このテーマについてはマイナスをなんとか防御しようという様な、あまり前向きではない印象を受けた。もう少しポジティブなイメージにできないだろうか。【福田委員】

失業率、食品偽装及びオレオレ詐欺等の問題による負のイメージを何とかしなくてはならない一方、国が全国的に実施するべき内容も多く、一自治体が担える役割が限定される面もある。【事務局】

国の施策を受けることももちろん大切だが、昭島をPRするような内容があると良い。【長谷川委員】

出来る限り配慮しながら検討したい。【事務局】

全ての市民及び側面に対応しようとすると、どうしてもそのような表記となる。その中でも、例えば緑など昭島市らしいものを市として打ち出してもいい。【石崎部会長】

(周辺都市との連携、まちづくりについて)

6章全体の印象として、都下における昭島市の立ち位置があまり明確ではないと感じた。周辺都市との比較ではなく、例えば大きい問題に関しては近隣自治体と連携及び協力する考え方も含め、昭島市の立ち位置を決めていくべきである。【福田委員】

広域的な連携は今後の施策の中で1つのポイントとなる。計画の推進の中で検討する。【事務局】
恐らく立川や八王子と競争しても勝ち目はない。年齢構成に応じたまちづくりや使い分けも必要である。【石崎部会長】

昭島市でもそのようなまちづくりを目指している。地域の商店は非常に厳しい状況にあるが、生活圏内である程度生活ができるように支援を行っていききたい。【事務局】

(水と緑について)

緑を打ち出している割に、昭島には小川を楽しめるような場がないのでつくれると良い。また安全面だけで縮こまってしまうのではなく、利用者の自己責任も明確にしながら支援を行っていく必要がある。【竹村委員】

水と緑を謳っていく中で、当然行政側としても水と親しめるような場について検討している。一方で安全面を危惧する市民の意見もあるので、どう調整していくかが課題となる。【事務局】

昭島市の特性として、湧水が減少し、4月から9月にかけて水が枯れてしまう場所もある。国の規制は厳しいが、農業用水を含め排水できる場所は市がうまく利用していく必要がある。【中野委員】

親水空間へのニーズは非常に高いので、なんとか実現をはかっていきたい。【事務局】

水利組合が保有する水利権の制度がまだ残っており、組合に了承を得て活動している。【竹村委員】

農業用水として一定の期間を管理しているようだが、小さい川では年間の中で総合的に調整して水を使わせてもらえる余地はある。ただし市民団体やボランティアでいつも川を綺麗にしない限り難しいので、そこを市でサポートできると良い。【中野委員】

出来る限りの努力をしたい。また用水については、現在水と緑の計画を検討している。活用すべき資産として、用水の重要性は当然認識している。子ども達が水と親しんで遊べるような環境をつくることを目標とし、実現を目指していききたい。【事務局】

2 その他

今回は7月14日開催予定。